

テーマ『身近な自然』

品川区立水神保育園

4、5 歳児が虫や植物に興味をもち「ダンゴムシってどうして土や葉っぱの下に住んでいるのかな」「あおむしは何でミカンの木にいるんだろう」など、疑問を感じながら遊んでいる姿が見られることから、虫や植物の生態や特性について、子どもたちの興味関心をさらに深めるために設定することにした。

事例1

『カブトムシの幼虫のお家づくり』 5歳児

【活動のねらい】 成虫への興味から、幼虫の飼育の体験を通して虫の成り立ちへの興味を深める

【用意した環境】 飼育ケース・昆虫飼育マット・シャベル・図鑑



【活動内容】

カブトムシの幼虫のお家をグループごとに作る。

【子どもたちの様子】

土の匂いをかいで「ミントみたい」と気付いたり、「幼虫はいつも(籠の)端の方にいるんだ」と子ども自身の経験から知っていることを話したりしていた。「お名前何にする?」と幼虫に名前をつけたいという思いからグループの友達に提案する子もいた。保育者が「誰が幼虫を持って移動させる?」と問うと、虫が得意な子は進んで手をあげるが、そうでない子は迷いながらも触ってみようと手を伸ばそうとする子がいた。

【保育者の振り返りと気付き】

初めて触ることが出来た体験から興味関心が深まり、他の子も「次は触ってみたい」と意欲に繋がっていた。

土の入れ替えや世話をする機会をもち、幼虫などへ新たな気付きに繋がるように継続していく。

事例2

『あおむしが ちょうちょになったよ！』 4歳児

【活動のねらい】 あおむしの飼育の体験を通して、虫への興味関心をもつ

【用意した環境】 飼育ケース・夏ミカンの木(園庭)の枝葉・図鑑



【活動内容】

- ・あおむしの観察
- ・飼育ケースの掃除
- ・羽化した蝶々を放す

【子どもたちの様子】

園庭であおむしを見つけ、育ててみたい！の声から“あおむしのお家”を作り育てた。繰り返し飼育ケースをのぞき、さなぎになったと気づき喜んでた。幼虫がどの段階にいるのか、図鑑と比べてみたり、成長過程を自分で絵に描いたりする姿も見られた。さなぎから羽化した蝶々を、クラスみんなで園庭から放すと見えなくなるまで手を振って飛んでいく様子を見つめていた。

【保育者の振り返りと気づき】

興味のある子の発言からクラス全体にあおむしの興味が広がっていった。

図鑑を用意することで、成長段階を調べ、友達に伝えたり絵に描いたりして興味を深めていた。

事例3

『ちょうちょさん またおいで！』 4歳児

【活動のねらい】 蝶々や昆虫の製作を通して身近な生き物に親しみの気持ちをもつ

【用意した環境】 昆虫図鑑、画用紙、水性ペン、ストロー、セロテープ



【活動内容】

蝶々や好きな昆虫を製作して園庭で遊ぶ。

【子どもたちの様子】

画用紙にアゲハ蝶を描き、切り取り大切そうに持っていたものに、保育者が持ち手をつけると他の子も同じように作り始めていた。あおむしがアゲハ蝶になり園庭に放したことを思い出しながら「お庭で飛ばせば仲間だと思って、またちょうちょさん来てくれるかもしれないよ」と友達を誘っていた。ミカン木のそばで蝶々を呼んだり、空に向かって飛ばしたりしていた。

【保育者の振り返りと気づき】

今までは、作ることで満足していた子ども達が、作ったものを戸外で遊ぶ楽しさを味わうことができた。製作は室内での活動となりがちだが、蝶々のように園庭で遊びたい子どもの願いを叶えることができ、子どもの笑顔に繋がった。